

律法と福音の違い

聖書の御言葉は「律法」と「福音」に分かれています。それらを正しく判別することは、キリスト教教義でもっとも重要な事柄です。今日、多くのキリスト教団体がありますが、そのほとんどがこの律法と福音を正しく分けて実践できていません。ある教会は福音だけを説き、律法を過小評価し、用いません。それは、教義の違いを生み出すだけでなく、人々の魂に重大な問題を生みだし、霊的な死を与えるか、いのちを与えるかという、もっとも大きな影響にかかわります。ちょうど洗剤にも「混ぜるな危険!」という警告が書かれているものがあります。洗剤自体は汚れを落とすために有益ですが、他の洗剤と混ぜることで爆発したり、有害なガスを発生することがあります。

簡単ではありますが、律法と福音の違いを学び、その機能と特徴も学びましょう。

律法と福音には主に 6 つの違いがあります。

1. 与えられ方が違います

律法 神は全ての人間の心の中に書き記した(ローマ 2 章 14-15 節)

だから、律法は人間の論理、理性、考えに合います。

だから、律法を伝えるとき、人々の反応は賛成します。

だから、全ての宗教には律法がいっぱいあります。

福音 福音は聖書の中にのみ書き記されています。(ローマ 3 章 21 節, ヨハネ 1 章 17 節)

だから、福音は人間の論理に合いません。(イザヤ 55 章 6-9 節)

だから、キリスト教だけが福音をもっています。

2. 内容が違います

律法 私たちがしなければならないこと、してはならないことを教えています。(ガラテヤ 3 章 12 節)

だから、律法は私たちの行い、思い、言葉について述べています。

福音 神がなさってくださったことを述べています。(ローマ 1 章 16 節)

福音は人ではなく、神のなさること、なさったことについて述べています。

人間に何も要求していません。

*「神を信じなさい」というのは、命令形ですが、実際には要求ではなく、神から人間への招待です。

3. 約束が違います

律法 律法の約束には、いつも条件があります

「もし、このことをすれば、、、これを与えます」ルカ 10 章 26-28 節、レビ 18 章 5 節

福音 福音の約束は、いつも無条件、無代価です。

「人間は何もしなくて良いのです。神であるわたしが、あなたの代わりに行います。」

ヨハネ 6 章 28-29 節、使徒 16 章 30-31 節、マタイ 16 章 15-16 節、エペソ 2 章 8-9 節、

テトス 3 章 4-6 節、ローマ 11 章 6 節

4. 警告が違います

律法 地獄、永遠の罰によって脅かします。(申命記 27 章 26 節)

福音 何も脅かしません しかし、福音は慰めを与えます。(I テモテ 1 章 15 節、ルカ 4 章 16-21 節)

5. 機能と影響が違います

律法 人間がしなければならないことを要求しますが、成し遂げる力を人間に与えません。

罪を示します。(ローマ 7 章 7-9 節) しかし、罪の解決を与えず、ただ絶望だけを残します。

犯した罪に対する、後悔をもたらします。

永遠の地獄での罰に対する恐れを生じさせます。

慰めを与えません。

福音 真の神を信じる信仰を与えます。

救いを得させる神の力です。(ローマ 1 章 16,17 節)

6. 伝える相手が違います

律法 自分の罪を悔い改めない人に伝えます(マタイ 15 章 15-18 節、I テモテ 1 章 8-10 節)

福音 自分の罪を真に悔い、絶望している人に伝えます(ルカ 17 章 3 節)

福音と律法の共通点

- ・ どちらも、神の言葉であり、良いものです。(ローマ 7 章 16 節、I テモテ 1 章 8 節)
- ・ どちらも、目的は人間の救いのためにあります

*さらに詳しく学びたい方は、ぜひ教会にご連絡ください。